

月刊 長谷さんさん通信

HASE SAN SAN NEWS

2021
7
月号

●発行：南アルプス山麓地域振興プロジェクト
推進協議会（愛称：長谷さんさん協議会）

●問合せ：南アルプス山麓地域振興プロジェクト
推進協議会事務局
TEL：0265-96-0938 FAX：0265-96-0939
E-mail：organic@j-sanchoku.net

●編集・制作：株式会社産直新聞社
長野県伊那市荒井 3428-7allla オフィスC

適期の除草が有機栽培の鍵

長谷みらい米づくりプロジェクト草刈り講習会

長谷地区で移住定住促進に取り組み溝口未来プロジェクトと共に有機栽培の米づくりに挑戦する「長谷みらい米づくりプロジェクト」の第一環として7月3日、介護予防拠点施設清友館で草刈り講習会を行いました。株式会社マツシマ（箕輪町）の小林稔さん、株式会社丸山製作所（塩尻市）の降幡昌孝さんを講師に迎え、刈り払い機の安全講習会を室内で行った後、御山の麓で実習を行いました。

■無農薬栽培に再チャレンジ

今年度5月から始まった「長谷みらい米づくりプロジェクト」。長谷地区で農薬、肥料不使用の海外輸出用高規格米を栽培する農業法人 WAKKA Agri社長の細谷啓太さんに学ぶ座学と、その知識を基に3つの研修圃場で実際に農薬・化学肥料不使用の栽培に挑戦するプログラムで

す。このプロジェクトに関わる中山友悦さん、中山雄雄さんは、有機栽培に関心があり、以前は耕さずに作物をつくる不耕起栽培に挑戦したり、農薬を使用せざれんげを肥料にして栽培したりとご自身でも挑戦したことがあったといいます。農薬を使用しないことで除草が追いつかず、草に栄養が取られ収量が少なくなってきたこと、除草作業が体力的にも厳し



田の草取りの後研修圃場で

くなったことなどを理由にやめてしまったとお話していました。長谷さんさん協議会が、有機・自然栽培をキーワードにした農学校を始めたことをきっかけに、もう一度挑戦してみようと奮起してくださり、現在の活動に繋がっています。研修圃場では、田植え後1週おきに3回田の草刈りを行いました。まだ草が見えるか見えないかという状態で行った除草作業は軽い力で行うことができ、適期の除草の大切さを知りました。現在、田んぼは稲の生育もよく、もう1度ほど田の草取りを行えば今期の除草は済みそうな状態になっています。

■刈り払い機の使い方を確認

7月3日に行われた草刈り講習会へは、長谷地区を始め伊那市近郊の23名が参加しました。初めて刈り払い機を使う人から普段使用している人まで参加者はさまざまでしたが、安全講習会を通して改めて使い方を確認しました。講師の小林さんは「刈り払い機はホームセンターなどで手軽に手に入るが、事故も多い機械。何が危険なのかわかった上で安全に使うしてほしい」と話しました。



草刈り講習会実習の様子

草刈り講習会は全3回を予定していて、1回目は安全講習と実習、2回目は長谷地区の地域の方に教えてもら

い急傾斜面の草刈りを行います。3回目は長谷みらい米づくりプロジェクトの研修圃場である3つの田んぼで草刈りを行います。田畑の管理には畦草刈りが欠かせません。適期に草を刈り管理することで、土手が崩れるのを防ぎ、それが地域の環境保全にも繋がっています。しかし、長谷地区の営農組合では5年後、10年後の草刈りの担い手を不安に思う声も聞かれます。こうした草刈り講習会で草刈りができる人を増やしていきたい。長谷地区内外に援農として関わってくださる人を増やしていきたいと考えています。

新企画！ 地域のお母さんから梅しごを学ぶ 伊那市地域おこし協力隊と共催

6月20日気の里ヘルスセンター栃ノ木で、地域のお母さんに郷土食の作り方を教えてもらう「いどばた会〜長谷の郷土食〜」を行いました。この講座は伊那市地域おこし協力隊の宮川沙加さんと長谷さんさん協議会で共催し、第1回目は梅しごを行いました。長谷在住の北島良子さんを講師に迎え、大人10名とお子さんが参加し、梅干しを作りながら郷土食や家庭の味について話しました。

■工夫を重ねた家庭の味

「郷土食のレシピは家庭によって様々。いろいろな人のレシピを聞いては作って、自分好みに調味料や作り方を変えていく」と北島さんは話します。今回の梅干しは漬けもの上手な中島文子さんから聞いたという1日干しだけできるレシピでした。まずは、梅のヘタを取って洗います。紫蘇は葉を洗って塩もみしてアクを抜き、酢を加えて色出します。きれいな容器に梅と氷砂糖、塩、酢、焼酎、紫蘇を加え、1ヶ月ほど保管し、梅雨明けに1日だけ天日で干して調味液に戻せば出来上がりです。今回は初めから紫蘇を入れましたが、梅を漬けておいて、紫蘇が畑で



梅のヘタ取り作業

取れる時期になってから入れてもいいそうです。「梅干しは大変そうだと思うことがなかった」と参加者は楽しそうに話していました。

■生活の中で育まれた郷土食

講師の北島さんは、年齢を重ねて健康について考える機会が増え、郷土食や野菜を中心とした食事、畑を耕すことや土を好きになることの大切さに改めて気づいたと言います。宮川さんは、地域おこし協力隊の活動で農産物加工施設の漬物や味噌作りに関わるなかで、作業の場が地域の女性たちの交流の場にもなっていて、世代を超えてこうした交流が続いてほしいと思ったそうです。今回の講座を通して違う世

代の人と話すことで、郷土食が地域で採れるものや気候の中、生活の中で育まれてきたことを感じ、それが伝わっていく場の大切さを感じました。



北島良子さん(左)と宮川沙加さん

裏面も
ご覧ください



畑のトマト、害虫から守るには

長谷さんさん農学校、グループで対策議論

伊那市西箕輪の有機農家・瀧沢郁雄さんを講師に迎えて開く「長谷さんさん農学校」の本年度3回目の講座が6月19日、長谷公民館講堂で開かれました。この日は雨のため屋内でグループワークを実施。畑の野菜の生育状況について瀧沢さんの報告を聞いた後、畑で特定の虫が大発生した場合にどう対処するかをグループで議論し、発表しました。

研修圃場「長谷さんさん農園」の野菜の生育状況を写真で確認した後、ナス・ピーマン・トマト・キュウリの整枝・誘引の仕方を瀧沢さんが説明。休憩を兼ねて5つのグループでなぜ有機農業に関心を持ったのかを話した後、グループワークに臨みました。

瀧沢さんから与えられた課題は、トマトを食害する蛾の一種「タバコガ」が大発生してしまった場合にどのように対処すればよいかというものです。瀧沢さんによると、タバコガは1匹当たりの産卵数が500〜600にもなり、それだけで壊滅的な被害となります。7月上旬から発生し、何も対処しなければ、収穫ゼロにもなりかねない厄介な虫です。

参加者たちはグループごとに意見を



講師の瀧沢さん



5つの班に分かれて行ったグループワーク

出し合い、「これぞ」という対策を考えました。あるグループでは、「半殺しにして天敵をおびき寄せるとの奇抜なアイデアが。このほか、「素手で捕獲して片っ端から駆除していく」「防虫ネットを設置して侵入を食い止める」「タバコガを誘引するフェロモントラップを仕掛けて畑から遠ざける」といった案が出されました。

瀧沢さんは講評で「『もしかしたらこんないいものがあるんじゃないか』という、何か分からない技術に頼るのは得策ではない」と説明。その上で、「大事なのは経験を生かして次の年どうするかにつなげること」と話しました。この日は長谷や高遠を含む伊那市に加え、富士見や駒ヶ根などの市町村から合計41人が参加しました。農学校では長谷地区在住の人に限り、引き続き参加者を募っています。



長谷中学校で新メニュー作り

食事処「すずな」で商品化も検討

長谷中学校1年生が、農業法人ファームはせが運営する食事処「すずな」と協働し、新メニュー作りに挑戦します。ラー油「長谷の太陽」の搾りだねを使用したおかずだれ「元氣だれ」を「すずな」で提供したことをきっかけに、長谷中学校の取り組みが、さらに地域へと広がりを

見せています。6月30日に行われた授業では、農業法人ファームはせ専務の羽場権二さんが、メニュー作りについて話しました。現在の「すずな」の人気メニューを例に出しながら、性別や年齢層など誰に食べてほしいかを考えること、農家の野菜を使うことや地域の繋がりを大切にしたいものを作りたいといった、メニュー作りの観点を提案し、お客様の求めるものと作りたいものが重なるような商品ができたかと話しました。授業の後には



長谷中学校で授業を行う羽場権三さん

「長谷の太陽や農家さんの野菜をたくさん使える餃子はどうか」など、生徒からも活発な意見が出ていました。1年を通してメニュー作りを行い、良いものがあれば「すずな」での商品化も検討するそうです。

6次産業化で長谷に元気を ワーキングチーム、取り組みを共有



農産物を加工した新商品で長谷を活性化しようと活動する長谷さんさん協議会の「6次産業化ワーキングチーム」は6月16日、本年度初の会合を長谷総合支所で開きました。チームに集うメンバーたちが昨年度の活動を振り返り、本年度予定する取り組みを報告し合いました。

ラー油「長谷の太陽」の原料となるトウガラシを栽培する長谷中学校、ラー油加工を担う伊那市社会福祉協議会は、両者の協力により順調に生産できたことを報告。道の駅で直売所を営むファームはせでは、長谷の太陽の搾りだねを活用したおかずだれ「元氣だれ」を開発し、7月1日から店頭で販売すると伝えました。

長谷の農業生産法人「Waka Agri」が、玄米食用の希少種「カミアカリ」を原料とした新発売のビール「HASE」の売れ行



本年度の活動予定を報告するメンバー

長谷さんさん農学校 来月の予定

8月21日 キャベツ類・白菜の定植と防虫対策、ニンジンの間引きと除草

ヘアリーベッジ(緑肥)とぼかし肥料で土づくりをした常福寺北側の研修圃場で、秋野菜の種蒔きと苗の定植、防虫対策を行います。苗は、7月の講座で種蒔きしたものを使用します。ニンジンの作り方についても講義があり、除草と間引き作業を行う予定です。雨天時は、座学を行います。 ※天候等により内容が変わることがあります。



7・8月の主な予定

- 7月24日(土) 長谷さんさん農学校
- 8月 1日(日) 長谷みらい米づくりプロジェクト 草刈り講習会
- 8月 6日(金) 長谷さんさん協議会役員会
- 8月19日(木) 小学1年生・6年生とさんさん農園で夏野菜収穫
- 8月20日(金) 小学生とさんさん農園で収穫した夏野菜カレー給食
- 8月21日(土) 長谷さんさん農学校

- 長谷地区在住の長谷さんさん農学校受講生を対象に協議会が所有する農機具の貸し出しを行なっています。
- 長谷さんさん農園の管理作業をお手伝いしてくれる方を募集しています。



長谷みらい米づくりプロジェクト 来月の予定

8月1日 草刈り講習会

田畑を管理する上で欠かせない畦草刈り。7月3日に行った草刈り講習会では、刈り払い機の安全講習会と実習を行いました。2回目となる今回は、普段から長谷地区の急傾斜の斜面を草刈りしている地域の方に教えていただきながら、斜面の草刈りについて学び、実習します。 ※天候等により内容が変わることがあります。

